

## 故事成語と結びつく私たちの生活や行動

北進ゼミナール

自分の利益にならないのに他人のために危険を冒すことを、故事成語で「火中の栗を拾う」と言う。故事成語とは昔のできごとや話が元になってできた教訓である。新型コロナウイルスの爆発的感染拡大ですっかり風化してしまった感もあるが、今年の1月末から2月上旬にかけて、敢えてその「火中の栗を拾う」を先駆けて実践したホテルがある。そして、それに近い動きが他のホテルにも広がりつつある。

昨年末に中国の武漢周辺で新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、今年3月にWHO(世界保健機関)がパンデミック(世界的大流行)を宣言した。そして、4月には国内で緊急事態宣言が発令されている。

国内で騒がれ始めた今年の1月末、政府は武漢にいた日本人を救出しようとチャーター機で迎えに行ったのだが、その中には感染者がいる可能性もあった。そのため、帰国した人々を隔離して一人ひとりの感染の有無を確認しようとしたのだが、そこで一つの問題が生じた。帰国者の人数が首都圏の政府関係施設で収容できる規模を超えていたのだ。彼ら全員を一体どこで隔離すればいいのか、政府が対応に困っていた際に千葉県勝浦市にある一つのホテルが協力を申し出たというのがいきさつだ。

武漢にいた人々を救出することに反対する国民はほぼいなかっただろうが、隔離先が自分自身の生活圏の近くになってしまうことについては拒否反応を示すケースもあったらしい。しかしながら、このホテルは積極的に帰国者の受け入れを行って一定期間の隔離に協力した。当時のネット上では、この勇気ある決断に感動と称賛の声が相次いだ。かく言う私もまた、隔離されている帰国者たちをホテルや周辺の住民の方々が励ましているニュース映像を見て心打たれた一人である。

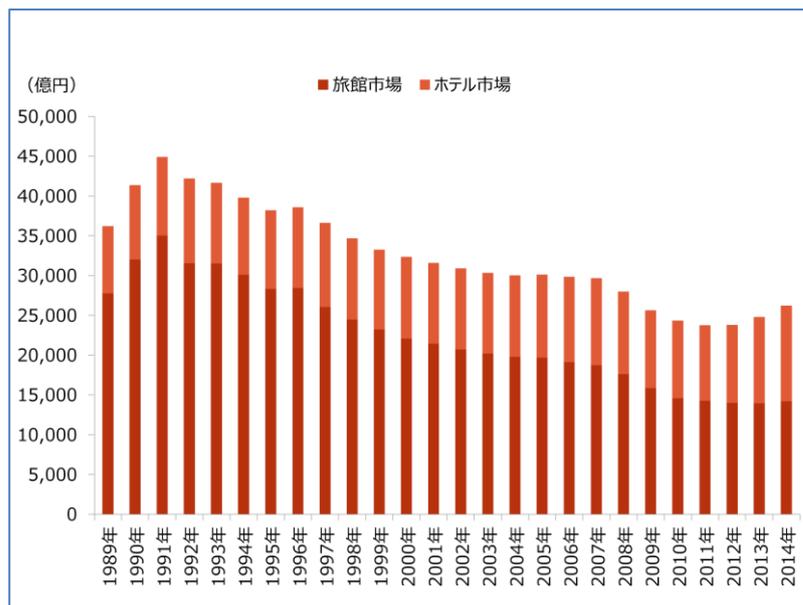
話は変わるが、ここに日本の旅館・ホテル業界に関する資料がある。資料Ⅰのグラフは日本全国の旅館やホテルの市場がどのように変化してきているのかを示している。ここでの「市場」とは全国のホテルや旅館に合計でどの位のお金が入ってきているのかを示す言葉として用いている。続けて資料Ⅱのグラフは全国の旅館やホテルが毎年どれくらい倒産しているのかを示している。ただでさえ厳しい経営環境なのに、今は新型コロナウイルスのせいで外国人旅行者も激減している。つまり、日本のホテル・旅館業界はさらに苦しい立場に追い込まれていると言えるのだ。

今がまさにこのような状態なので、一時帰国者の受け入れが前述のホテルにとって吉と出るか凶と出るかはまだ分からない。しかし、このできごとをきっかけにそのホテルに興味を持った人も少なくあるまい。そして、それは人々を現地に引き寄せる原動力となるのではないか。今は感染拡大防止が第一で旅行している場合ではないが、終息した後にホテルや勝浦の街に賑わいが戻ることをぜひ望みたい。

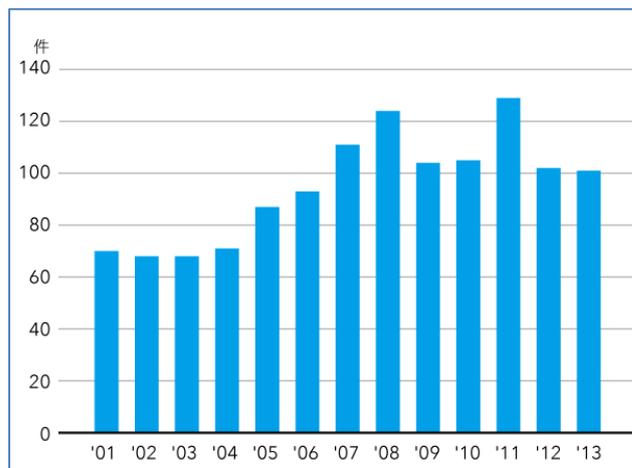
繰り返しになるが、このホテルは火中の栗を拾いにいった。本来「火中の栗を拾う」はあまり良くない結果を伴う場合に用いる。しかし、今回ばかりは「災い転じて福となす」となって欲しいものだ。なお、こちらは厄介ごとが一転して幸福の種になることを示す故事成語である。これらのように故事成語から得られる教訓が、現在の私たちの生活や行動に結びつくこともあると思う。故事成語を知っておくことで、事前にリスクを回避したり苦しくても頑張れたりすることもあるかもしれない。資料Ⅲにはいくつかの故事成語を掲載してある。これを機に、自分自身の最近の、または過去の経験を振り返り、当てはまる故事成語を探してみることをお勧めしたい。

以上

【資料Ⅰ】日本の旅館市場・ホテル市場の推移(出典：厚生労働省衛生行政報告例)



【資料Ⅱ】日本の旅館・ホテルの年間倒産件数(出典：帝国データバンク)



【資料Ⅲ】故事成語の具体例

| 故事成語          | 読み方               | 主な意味                           |
|---------------|-------------------|--------------------------------|
| 井の中の蛙大海を知らず   | いのなかのかわず たいかいをしらず | 狭い世界に閉じこもっていて広い世界を知らないことのとえ。   |
| 雨だれ石を穿つ       | あまだれ いしをうがつ       | 小さな努力でも根気よく続けていれば最後には成功するたとえ。  |
| 虎穴に入らずんば虎子を得ず | こけつにいらずんば こじをえず   | 危険を冒さなければ望みのものは手に入らないことのとえ。    |
| 塞翁が馬          | さいおうがうま           | 人間の幸不幸はその瞬間では分からないことのとえ。       |
| 百聞は一見に如かず     | ひやくぶんはいっけんにしかず    | 話で聞くよりも自分の目で確かめる方がよく分かるというたとえ。 |
| 和して同ぜず        | わしてどうぜず           | 他人と協調はするが、安易に同調はしない様子のたとえ。     |

## □中学生(小学生希望者)対象課題

### 故事成語と結びつく私たちの生活や行動

私たち自身の生活や行動にも当てはまる故事成語がいくつも存在すると思います。課題文にあるように千葉県勝浦市のホテルは「火中の栗を拾う」行動に出ました。「火中の栗を拾う」は一般的には良くない結果を伴う時に用いる表現ですが、今回に関してはそうならず「災い転じて福となす」となって欲しいと書いてあります。資料を参照しながら課題文を読んだ上で、以下の条件に従って作文を書いてください。

なお、いきなり作文用紙に書きだすのはお薦めしません。下書きを行った上で別の日に改めて読み直し、誤字脱字・助詞や主語述語の不整合を直した上で作文用紙に清書するようにしましょう。

また、(3)でテンプレートが示されていますが、必ずしもそれにこだわる必要はありません。(1)と(2)の条件を守れば自由に書いて構いません。

**(1)指定作文用紙に 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。**

**(2)以下の順番で「故事成語と結びつく私たちの生活や行動」というテーマで書いてください。**

- ①資料Ⅰ・資料Ⅱのグラフから読み取れることを 100～150 字程度で書いてください。
- ②課題文で紹介されているホテルの決断や行動について自分自身が感じたことを、上記①で書いたことを踏まえながら 100～150 字程度で書いてください。
- ③資料Ⅲに掲載されていたり、自分自身が知っていたりする故事成語のうち、自分の最近の、または過去の経験と結びつくものを一つか二つを選び、その経験を 200～300 字程度で紹介してください。
- ④最後に上記①～③で書いたことを踏まえて今後、心掛けていきたいことや目指していきたいことを 200～300 字程度で書いてください。

**(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。**

- ①「ホテル業界や旅館業界の経営は～ということが読み取れる。資料Ⅰによれば～であるし、資料Ⅱで見ても～していることが分かる」(100～150 字程度)
- ②「そのような厳しい環境の中で、このホテルは～のような行動を取った。私は～と感じた。もし、自分自身が厳しい状況に追い込まれた場合には～しまうだろう。しかし、この課題文を読んで、今後は私自身も～ということを心掛けたいと思う」(100～150 字程度)
- ③「ところで、私には『○○○○(故事成語)』という経験がある。それは～のことだ。(以下、経験の具体的な内容が故事成語とどう結びついたのかを書く)」(200～300 字程度)
- ④「(今の)私には～だということが分かる。今後、～ということがあった場合も『○○○○』を忘れずに～するようにしていきたい」(200～300 字程度)

以上